

日々「誠心誠意」を モットーに、 行政トップの 要職を担う



Profile

山下卓司 氏
(70E)
桑名市 副市長

平成16年12月、三重県の多度町と長島町、旧桑名市の一市二町が合併し人口14万人を超える都市として誕生した新「桑名市」。三重県有数の観光と産業を持ち、名古屋圏のベッドタウンとしても発展する桑名市の市政を副市長として束ねる山下卓司さん。大学時代の思い出や、行政トップとしての心構えなどを語っていただきました。

私が名古屋学院大学に通い始めた頃は、まだ砂田橋にキャンパスがありました。名古屋に4年間通うつもりで入学したのですが、キャンパスは瀬戸市に移転。通ってみると遠くて、バスの本数も少なく、なんて不便な場所に大学を作ったんだ...というのが正直な感想でした。当時は大学が郊外にどんどん移転していく時代で、例えば、名古屋学院大学はその先駆けだったといえます。そして再び名古屋に戻って来た今、他大も都心に戻る傾向があるようで、まさに隔世の感があります...

私は今、桑名市の副市長職を拝命し、より良い行政

サービスが行えるよう日々務めております。しかし、社会人としての第一歩は民間会社からスタートしました。大学卒業後、名古屋市内の港湾関係の会社に就職しましたが、家庭の事情で地元桑名に戻ることに。桑名市役所の中途採用試験に応募し現在に至る訳です。最初の勤務先は市民病院からはじまり、いろいろな部署を経験しました。特に企画畑が長く、一番印象に残っている仕事は、平成4年にはじめたゴミの分別収集に関するものです。今では当たり前のようにリサイクルという言葉が定着していますが、当時はまだゴミを「分別して捨てる」という概念が普及しておらず、住民の皆さんのご理解を得るために日夜汗を流したことがまるで昨日のことのように思い出します。ゴミの分別収集は東海エリアでは桑名市が一番早く、「ゴミを制する者は天下を制する」くらいの心構えで毎日取り組んでいました。このゴミの分別収集がきっかけで、住民の皆さんとつながることができ、街づくりに関して一緒に考えていただける素地ができたことが今では私の誇りでもあります。



これも大学在学中に学んだ、「何事もあきらめずに、一歩一歩前進する」精神がしっかりと思いついていたからかもしれません。また、私のモットーは「誠心誠意」であり、物事の失敗を恐れるあまり行動できないような中途半端なことはしないよう努めています。チャレンジ精神を持って常に行動していれば、いつか結果はついてくると思います。地方財政が非常に厳しい時代ですが、桑名市の発展と住民の皆さんの快適な暮らしを守るために日々努力を惜しまず、魅力ある街づくりに取り組んでいくつもりです。もし、同窓生の皆さんのご子息や名古屋学院大学の在校生が桑名市役所に入りたいだけのことであれば、是非一緒に街づくりにチャレンジしたいものです。

最後に、名古屋学院大学のさらなる発展と、同窓生の皆さんのご健康とご多幸を心から祈っております。



Profile

田邊益己 氏
(72E)

遠州信用金庫 理事長

昭和25年の創立から60年にわたり、静岡県で金融事業を営んで来られた遠州信用金庫。現在は静岡県浜松市を拠点に、大井川から豊橋までの営業エリアで25店舗を展開されています。理事長を務める田邊益己さんは本学の経済学部卒。信用金庫の経営に携わる思いを語っていただきました。

遠州信用金庫は今年創立60周年の節目を迎えました。元々、浜名信用金庫と引佐信用金庫という2金庫が昭和46年秋に合併してできた金融機関です。また来年は遠州信用金庫が誕生して40周年という、こ

れまた節目の年を迎えます。私が遠州信用金庫に入庫したのは昭和49年でした。昭和47年に名古屋学院大学を卒業後、名古屋の会社に就職しておりました。長男だったのでいずれは実家のある浜松へ戻るつもりでしたが、予定していた年数よりも早く切り上げて浜松に戻った訳です。就職先に遠州信用金庫を選んだきっかけは、自宅の近くに本店があったこと、自宅の口座を開いていた。



関係もあり、何か縁を感じたので試験を受けました。以来、遠州信用金庫一筋です。オートバイに乗って得意先回りを行ったり、教店舗で支店長も務めるなど、約30年の間現場勤務でした。金融機関でいうところの本部に来たのが53歳の時です。営業・審査・企画・運用と金融機関の業務の大半を経験してきました。本部に入り役員になって7年目、そして私は今年6月の総会において理事長に選出され、現在に至っております。

先程も述べたように、今は大切な節目の時期です、

また貸し出しに関する信用リスクや有価証券運用の市場リスクなどを見極め、しっかりと営業数字を把握していくことが私の役割です。リーマンショック以降、景況観はまだまだ厳しいままです。当金庫を信じて大切なお金を託していただいている皆様、得意先の資金面や経営戦略面での相談など、あらゆる顧客のご期待を裏切らないためにも「とにかく誠実な仕事を心掛ける」よう職員には日々訓示しています。そして、様々な目標に対して「すぐやる。必ずやる。できるまでやる。」を合言葉に、誠実に取り組むことを徹底させているところです。大げさに言うところ「小細工をしないで、きちんとした仕事を行う」ということ。

遠州信用金庫はいわゆるオーナー企業ではありませんが、私の最大の使命は次世代にうまくバトンタッチをしていくことだと考えております。一番舵取りが難しい時期に要職を拝命した、という感じでしょうか。もちろん、やりがいには申し分ありません。

私は働き始めて約40年になりますが、やはり誠心誠意を込めて仕事に取り組んできたことが一つの誇りです。きっと皆さんには同じ学び舎で教えられた者として、ご理解いただけるのではないかと思います。

最後に、同窓生の皆さんのご活躍と、同窓会のごさらなるご発展を祈念いたします。

「すぐやる。
必ずやる。
できるまでやる。」
誠実な仕事を
心掛けて